

成熟好中球に種々形態異常を認めた T-ALL

◎野村 駿佑¹⁾、上野 寿行¹⁾、丹羽 欣正¹⁾、井上 史江¹⁾、櫻井 香織¹⁾、加奈山 憲代¹⁾、入江 礼香¹⁾、丸岡 隼人²⁾
 神戸市立医療センター 中央市民病院 LSI メディエンス検査室¹⁾、神戸市立医療センター 中央市民病院臨床検査技術部²⁾

【はじめに】

成熟好中球に偽性ペルゲル核異常、二次顆粒欠損等の異常を認める事は、MDS、AML 等骨髄系で発現例が多い。今回、投薬歴及び骨髄系腫瘍の既往、現病がない T-ALL において、成熟好中球の前述異常に加えて、クロマチン異常凝集 (ACC) 及び核突起物 (NP) を多数認めた症例を経験したので報告する。

【症例】

70 歳代男性、糖尿病性腎症、前医にて WBC $5.6 \times 10^9/L$ 、末梢血液中に芽球様細胞 3.5% で急性白血病を疑い当院血液内科に紹介となった。

【入院時検査所見】

末梢血：WBC $16.2 \times 10^9/L$ 、HGB $10.4g/dL$ 、PLT $204 \times 10^9/L$ 、芽球様 53.5%、Promy 0.5%、My 1.0%、Band 2.0%、Seg 18.0%、Ly 17.0%、Mo 2.5%、Eo 5.5% 生化学検査：TP $7.1g/dL$ 、ALB $3.8g/dL$ 、LD $332U/L$ 、ALP $212U/L$ 、CRP $0.02mg/dL$ 、骨髄検査： $217 \times 10^9/L$ 、核網は繊細だが、明瞭な核小体は有さない lymphoblast 90.6%、フローサイメ

トリーで CD2+, cyCD3+, CD7+, CD19-, CD34+, CD38+, cyMPO- から T-ALL と診断された。染色体検査 46,XY, IgH 再構成 (-), TCR 再構成 (-), BCR-ABL1 (-) で染色体検査・遺伝子検査には異常は認めなかった。末梢血好中球における NP は 78% で、NP 数 1 つ 18 細胞、2 つ 33 細胞、3 つ 19 細胞、4 つ 5 細胞、5 つ 3 細胞であった。ACC の総数は 86.5% で、その内容は極度のクロマチン凝集、アポトーシス様凝集等様々であった。また、ACC、NP は ALL 寛解に伴い消失した。

【まとめ】

今回の症例は、昨年「成熟好中球にファゴット様物質を認めた T-ALL」として既に報告したものである。その後の追加検討において ACC 及び NP が成熟好中球に多数認めらることに気が付き、ALL における同物質発現は文献的にも極めて例が少なく、胃癌における NP 出現例に留まるのでその成績を紹介する。また、骨髄系腫瘍、リンパ系腫瘍、固形癌等での検討は現在進行中であるので、今後その詳細を報告したい。

連絡先 078-302-1820